

平成 23 年 6 月 18 日

東日本大震災による宮城県内産業動物被害状況について

NOSAI 宮城 武蔵 昌文

昨年、宮城県南部に発生した口蹄疫（4 月 20 日ー7 月 4 日）では、ウシ・ブタを中心に 28 万 8643 頭を殺処分され、さらに本年 1 月には宮城県を含む 8 県 23 農場で高病原性鳥インフルエンザが発生し甚大な被害を被った。このように獣医学上由々しき事象が頻発する中、3 月 11 日午後 2 時 46 分、国内観測史上最大 M9・震度 7 の大地震（それに続く大津波）、いわゆる「東日本大震災」が発生した。特に宮城県は大きな被害を被ったが、本レポートでは産業動物の被害状況を報告する。

<被害の概要（表 1、図 1）>

- ① 震災による乳用牛・肉用牛（石巻管内、南三陸町、本吉町、気仙沼管内沿岸部）の被害・死亡の原因は、畜舎の崩壊による圧死、驚愕による滑走、股関節脱臼、逃走による墜死、津波による溺死であった。地震での被害頭数 28 頭、被害額 12,944 千円、津波での被害はより甚大で被害頭数 617 頭、被害額 252,880 千円、総計 645 頭、265,824 千円に及んだ。
- ② 豚（名取市あるいは岩沼市沿岸）においては、停電による凍死、津波による溺死であった。地震での被害頭数 350 頭、被害額 4,900 千円、津波での被害頭数 2,537 頭、被害額 69,574 千円、総計 2,887 頭、74,474 千円であった。
- ③ 採卵鶏・ブロイラーにおいては、鶏舎ケージの損傷及び飼料供給停止による餌不足に関連した餓死であった。地震での被害頭数 1,301,655 羽、被害額 360,227 千円、津波での被害頭数 174,800 羽、被害額 43,756 千円、総計 1,476,455 羽、403,983 千円であった。
- ④ 蜜蜂（山元町及び気仙沼市）においては、設置巣箱の津波による破壊であった。
- ⑤ 間接（2 次）的被害として、飼料・飲水・燃料の供給低下に伴う生産性（乳量）の低下、停電によるミルクカー搾牛の停止と乳房炎の発生、乳業施設停止による出荷停止による生乳廃棄、地震の驚愕からか流早産もみられた。さらには、濃厚飼料の給与量変更やストレスに伴う胃腸障害・繁殖障害が散発した。

<最後に>

被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げますと共に、一日も早く復旧されますよう心からお祈り申し上げます。頑張りましょう。

表 1

東日本大震災被害状況(家畜)※

平成 23 年 6 月 7 日現在

<地震>

1 被害状況

単位:千円

畜種	頭羽数等	推定概算被害額
家畜(乳牛)	16 頭	7,000
家畜(肉用牛)	12 頭	5,944
家畜(豚)	350 頭	4,900
家畜(採卵鶏)	747,430 羽	201,806
家畜(ブロイラー)	554,225 羽	158,421
その他	ふ卵用卵33t	55,000
小計	①	433,071

<津波>

1 被害状況

単位:千円

畜種	頭羽数等	推定概算被害額
家畜(乳牛)	171 頭	60,080
家畜(肉用牛)	446 頭	192,800
家畜(豚)	2,537 頭	69,574
家畜(採卵鶏)	37,800 羽	9,506
家畜(ブロイラー)	137,000 羽	34,250
家畜(ミツバチ)	405 群	6,160
小計	②	372,370

総被害額 (①+②) 805,441 千円

※ NOSAI 加入等全てを含む

図 1



① 石巻市北上のA農場冠水状況



② 南三陸町志津川保呂毛集落津波による壊滅